

自立活動だより

紀北支援学校自立活動部

令和6年6月発行

6月の自立活動だよりは、中学部の知的障害学級（通称：1ブロック）より3年生、肢体不自由学級（通称：2ブロック）より3年生の自立活動の取り組みについて紹介します。

今年度の中学部は1ブロック55名、2ブロック9名の生徒が在籍しています。（令和6年度6月現在）自立活動の授業形態は、子どもの実態や目標に応じて個別または小集団で行っています。目標を達成するために自立活動の内容を関連付けて指導内容を考えて取り組んでいます。

【2ブロックの取り組み】

3年生 Aさんの事例

☆自立活動の区分とねらい

【健康の保持】【身体の動き】

- ・関節の可動域を保持する。
- ・筋緊張を緩め、頭部をよい位置で保持する。

【環境の把握】【コミュニケーション】

- ・気持ちや要求を伝えたい場面において、絵カードなどを注視したり、表情を変化させたりすることで、意思表示をする。

☆活動内容

- ・ROM-Exを行い、筋緊張を緩め、特に硬くなってきている左足関節は重点的に行う。
- ・長下肢装具を装着して立位を行うことで、脊柱を伸展させたり、頭部をコントロールしたりする。
- ・頸部のストレッチに取り組み、頭部をよい位置で短時間保てるようにする。
- ・視線入力装置を使用した取り組みで、見る力を養う。
- ・気持ちを伝えたい場面「この音楽が聴きたい！」「もっと給食が食べたい。」「もうお腹がいっぱい。」などにおいて、絵カードの選択肢を提示して、気持ちの表出を促す。

☆経過・成果

足関節の可動域が狭くなってきているため、体操を継続して行っています。痛みを感じるときには、声を出したり、表情をゆがませたり、時には涙を流したりして、痛いことを伝えてくれますが、継続して取り組むことにより、体操時の可動域が大きくなったり、長下肢装具を履く際にスムーズに履けるようになってきています。また、頸部の筋緊張から、頭部の位置に左右差がありますが、ストレッチ等により筋緊張が少し緩和されると、教師の言葉かけを受けて、「この位置で頑張ろう。」と意識している姿も見られます。

見る力の向上に向けて、視線入力装置の活用や、『見て選択する』活動を様々な場面で取り入れることで、提示された対象物にしっかりと注目できる力も身につけてきました。特に給食の場面では、食事のスピードが落ちてきたタイミングで「もっと食べる？」「もう終わる？」と絵カードとともに尋ねると、「終わりたい」方の絵カードを注視するなど、見て選択し、気持ちを伝えようとする場面が出てきています。



【1ブロックの取り組み】

3年生 Bさんの事例

☆自立活動の区分とねらい

【心理的な安定】【人間関係の形成】

- ・困った時に助けを求めたり、やりたいことの要求を言葉で教師に表現する。
- 【コミュニケーション】
- ・一日の出来事を振り返り、教師に言葉で伝えコミュニケーション能力の向上を図る。

☆活動内容

【スケジュール管理】1日のスケジュールを手元にある時間割表を見て、本生徒専用の連絡帳に記入する。

【個別学習時】わからない問題がある時「〇〇先生おしえてください」と教師に伝える。

定着しているので視覚支援カードがなくてもコミュニケーションがとれる。

【休憩時間時】教室にある教具を貸してほしい時「〇〇先生貸してください」と教師に伝える。返却する時のマナーとして「ありがとうございました」と伝える。

【記憶の保持】午前中の授業内容を記憶しているかを確かめるために昼休みに本生徒に聞くことを行っている。例えば、「英語」とすぐに答えることができるが、これで終わるのではなく、「英語のうた」「ABCD・・・」と内容まで聞くようにしている。わからない時はファイルを取り出し自分で見て答えようとしている。午後の授業については、終わりの会で同様のことをしている。

【体調等の表出】文字とイラストをマッチングすることで理解を図り、学習としてすべてクリアしている。しかし「しんどい」とか「イライラする」とは、どんな状態なのか理解できていないので、その場面になったとき、「これがイライラなんだ」と理解を促している。また突然教室を飛び出すことがあるので、「トイレに行ってきます」などの表示を見える箇所に貼り、教師に伝えてから教室を出るように指導している。

【環境設定】個別学習時にパーテーションをして他の刺激を軽減している。

☆経過・成果

登校時から特に教師の言葉かけがなくても、自分で着替え等も含め行動できています。手順表やスケジュールの確認により、全般に安定した学校生活を送ることができています。変化に対しても丁寧に説明をすることで不安定になることはほとんどありません。自分のやり方を遮られたと感じて混乱し、大きい声を出して情緒が不安定になることがあったり、また授業等一定時間、集中して取り組んだあと、テンションが高くなり飛び跳ねたりすることがありました。これらの行動は、ストレスを感じ、休憩したい等の気持ちの表現であると考えられますが、言葉で表現できるように取り組みをさらに進めていきたいと思っています。

